日本災害看護学会先遣隊　令和５年７月九州北部を中心とする豪雨被害活動報告

2023 年 7 月 16 日（日）

活動隊員：寺田英子、三橋睦子

１．活動日時

令和５年７月 16 日（日)8:30-16:45

２．活動場所

佐賀県唐津市浜玉町今坂地区、唐津市ひれふりランド（唐津市災害ボランティアセンター）

３．被害状況

佐賀県唐津市浜玉町では、6 月 29 日から大雨が断続的に降り、10 日の早朝には線状降水帯の発生による土砂崩れが起きて住宅２棟が倒壊、死者、行方不明者が発生した。警察や消防、自衛隊による行方不明者の捜索が続行されていたが、7 月 14 日で死者３名が確認され捜索活動は終了した。16 日より被災家屋の片付け作業などのためにボランティアが入っている。

・人的被害：死者３名（死者数は 7 月 16 日時点のメディ情報）

・住宅被害：全壊４棟

総務省消防庁　令和５年６月 29 日からの大雨等による被害及び消防機関等の対応状況（第 25 報）

４．天候

晴れ　最高気温 33℃ 最低気温 27℃　湿度 60％

5. 活動の実際

8:30　出発、佐賀県唐津市浜玉町を目指す。

民間支援団体より、浜玉町には現在外部支援が入っていないとの情報を得る。

11:30　今回の土石流で３名の方が亡くなった浜玉町今坂地区の今坂公民館に到着。唐津市社協ボランティア担当者、今坂地区区長、民生委員に案内され現地の土石流発生場所の視察、住民の状況などを伺った（写真１～４）。

区長、民生委員によると、この地区は全体で 60 世帯ほどで、そのうち独居高齢者世帯は 10 世帯あまりである。本日は社協により、こういった独居高齢者世帯を中心に個別訪問がなされていた。最も被害が大きかった土砂崩れの現場よりさらに奥の地区も土砂崩れによって道路が寸断され、断水にもなっている。その地区の住人５世帯９名は浜玉中央市民センターに避難している。断水になっている地区の 80 歳代の独居の高齢者の健康状態を確認してほしいとの要請が民生委員と社協からあったため訪問したが、当人は隣県の親戚宅に避難しており不在であった。またボランティアが入っている家屋を訪ね、ボランティアの体調変化を確認するとともに、高齢の住民の血圧測定、健康観察を行った。

14:30　唐津市ひれふりランド到着。ここは唐津市社協の災害ボランティアセンターになっている。本部にて民間 NPO および社協職員より情報収集を行った。

・医療体制として 7 月 14 日から日赤が臨時救護所を設置、唐津赤十字病院から看護師が日替わ

りで 2 名ずつ派遣されている。ボランティアの急病やケガなどに対応する準備があるが、この 3 日間で受診者は 0 名だということであった。

・本日は 62 名の一般ボランティアが今坂地区と七山地区で活動している。

・今坂地区の断水している地区の住人 5 世帯 9 名は浜玉中央市民センターに避難しているが、マスコミなど外部者をシャットアウトしているとのことであった。

・唐津市七山地区も同様に被災したが、10 世帯 30 人が自宅で暮らしている。ライフラインは無事だが土砂が流入している家屋もあり本日は数十名のボランティアを投入したとのことであった。社協が七山地区の公民館に飲料水等支援物資を配布しているとのことである。

・今坂地区は保健師が全戸訪問を実施した。

15:30　ひれふりランド出発

16:45　久留米帰着、活動終了

６．考察

今坂地区は土石流により死者も出ており、家屋の倒壊や道路の寸断などもあった地区であるが外部支援は入っておらず、ボランティアもようやく入り始めたばかりである。しかし、区長や民生委員をリーダーとする地域コミュニティが機能しており、お互いしっかり支え合っているようであった。

外部支援が入りにくい地域ではあるが、高齢化で独居高齢者も多く継続した支援が必要である。区長や民生委員などが復旧活動や住民の要請などに奔走しており、疲弊した状況も垣間見えた。今後の復旧・復興過程の中で、地元の支援者への支援もコミュニティ機能を維持するために必要である。

７．課題

１）中長期的な地元による支援の継続

２）地元の支援者を支える支援

８．活動の総括

豪雨災害の被災地である久留米市及び唐津市で先遣隊活動を行った。今回の被害の特徴は水害による浸水と土砂災害であり、その復旧時期に留意すべき健康障害を中心にアセスメントと介入を行った。

支援は充足しているように見受けられたが、支援の分配に課題があるようであった。どこの被災地も高齢化や独居の課題があり、今後中長期的に支援していく必要がある。

９．参考写真

写真 1

写真 2

写真 3

写真 4